

# SuFRe

# スフレ通信

Support Office for Female Researchers

## 女性教員比率の今とこれから

スフレ SuFRe ができてほぼ1年半が経ちました。信州大学に男女共同参画の風が少しずつ吹くようになりました。スフレの取組みに連動するように、授業にジェンダーの視点を含める、女性教員の少なさに気付く、育児・介護支援を公に口にできる、会議開始時刻を早めて夕方5時まで終わるようにする、男性の育児休業をバックアップする、などの変化が出てきました。

日本の研究者に占める女性の割合は増加傾向にあります。下図のように国際比較データでは最低レベルです。平成18年度から文科省が女性研究者支援を始めたことから、僅かずつではありますが、確実に女性の比率はアップしています。平成24年度までに本学を含めて76機関(国立大学49、公立大学6、私立大学15、独立行政法人6)がこの補助事業に採択され、取組みを展開しています。そのような中で、本

学の女性教員比率は86国立大学中64位(平成24年)という状況です。本学は平成23年5月から平成26年5月までに女性教員比率を11.9%から13.7%に引き上げることを目標に掲げています。

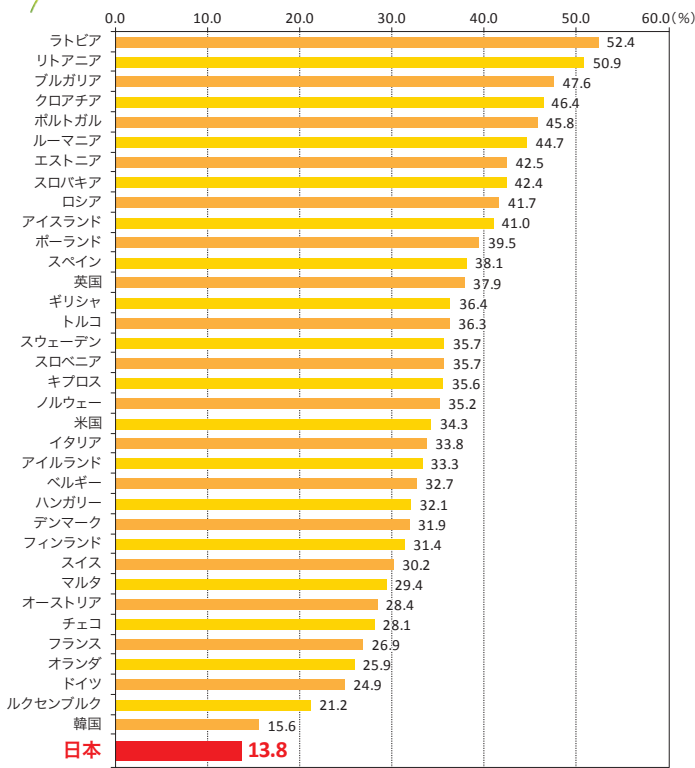


昨年5月の男女共同参画推進委員会で、部局別の女性教員採用目標数を決定し、各部局で努力いただいているところです。本年1月の同委員会において、進捗状況が報告され、女性教員が全体で15名増え、12.4%になりました。また、女性教員がゼロの学部がなくなりました。採用目標数に到達していない部局が半数ほどあり、各部局の今後の対応に注目していきたいです。

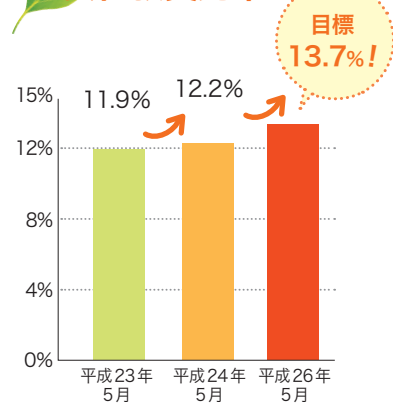
私が本学に着任した30年ほど前は、女性教員が結婚すると、当然のことにように退職を口にする男性教員がいました。10年ほど前までは公然と「女性教員はいらない」という発言も聞かれましたが、最近では「性別に関係なく教員を採用している」とみなさん口を揃えておっしゃいます。真意はともかく、発言は大きく変化してきました。「採用したいけど、残念ながら応募者がいない」とも聞きます。確かに女性教員の裾野を拡大していかなければならないのですが、応募を待っているだけで、応募者を増やす努力をしていないのが気になるところです。

国は第4期科学技術基本計画において、自然科学系女性教員の採用割合30%の達成を目指しています。また、国立大学協会では、平成27年までに女性教員比率を17%以上に引き上げることを目標としています。ちなみに、世界の主要大学における女性教員比率は、ハーバード大学32%、プリンストン大学28%、オックスフォード大学23%(The Times Higher Education Supplement(THES) 2008)です。

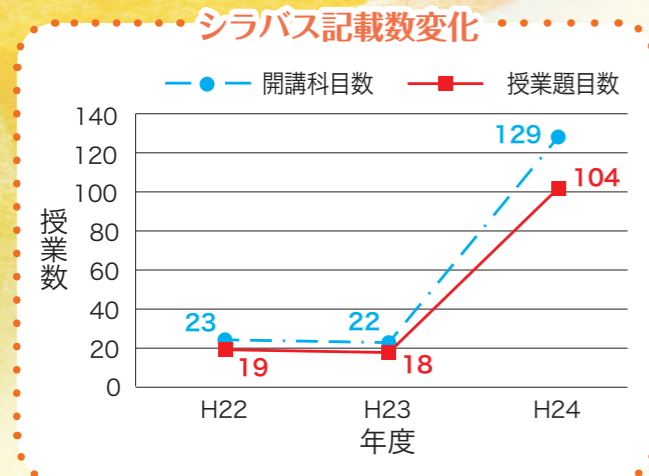
### 研究者に占める女性割合の国際比較



### 女性教員比率



# 大学内シラバスにおける「男女共同参画」・「ジェンダー」の記載数の変化



※【開講科目数】は、同一授業題目の科目を重複して数え、【授業題目数】は、同一授業題目の科目を重複せずに数える。例えば、「ドイツ語初級(読解・会話)1」という授業が、前期に1回、後期に1回ずつ行われている場合、【開講科目数】では授業数2と数え、【授業題目数】では授業数1と数える。

本学では、「信州大学男女共同参画行動計画」に基づき、男女共同参画に関する教育・啓発活動を推進する一環として、学生に対しても男女共同参画に関する講義、セミナー等の意識啓発活動を実施しています。平成23年度末、男女共同参画推進委員会の決定を受けて学長から教員に対して、該当授業のシラバスに「本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。」の文言を記載するよう依頼をしました。

左のグラフは、授業のシラバスに記載された「男女共同参画」または「ジェンダー」の文言の記載数です。

**「男女共同参画」・「ジェンダー」の視点を授業に取り入れてください**

男女共同参画の推進、学生の自己確立とキャリア形成の基礎をつくるために、「男女共同参画」・「ジェンダー」の内容を取り入れた教育は重要です。

既に平成25年度のシラバス作成が進んでいると思いますが、「男女共同参画」・「ジェンダー」の内容を取り入れた授業を計画していただくと同時に、該当授業のシラバスに指定の文言の記述をお願いいたします。教員の皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

## ～男女共同参画・ジェンダー教育の展開について～

### 「ジェンダー論」開講の意義



高等教育研究センター准教授 加藤 善子

教養教育では、「自分を理解し、受け入れる」ことが目的の1つであるとは信じていますが、「ジェンダー論」は、まさしくその過程を提供するものでしょう。性と身体という、持って生まれたもの、変えられないもの、受け入れなければならないものを持って、私たちは皆、社会で生きていかねばならないからです。男女共同参画社会は、女性性や男性性をなくして誰もが中性になる社会ではありません。多様な性があることを認め、自分が女性であること、あるいは男性であることを受け入れて、互いに自己実現を目指す社会です。

若い世代のジェンダーをめぐる状況は、大人世代の状況とは大きく異なってきており、10年ほど前までの学生とも明らかに変わってきています。この数年のジェンダー研究の発展はめざましく、特に学校空間において、ジェンダー問題といえば「男子問題」とであるという問題意識が強くなり、注目を集めています。多くの先進国で、核家族化が進み、専業主婦化が進むと、男の子は自分のモデルとなる男性不在の環境の中で幼少期と少年期を過ごすことになりました。しかも、小学校の先生は、7～9割が女性です。現在20代の男性は、ジェンダー・アイデンティティが形成されないという社会的な負荷を背負わされているのです。先進国ではこの数十年、女性の社会進出を伸ばそうと様々な政策を打ち出してきました。それが功を奏して、理数系科目でも女性の成績が上回るようになってきましたが、その一方で、男性が持つニーズは無視されたままでした。一転して就職市場を見ると、男子の就職率や昇進率は女子よりも高い。社会的に負わされる問題も、学校での努力や成功も、大人の社会では考慮されないのです。どちらの性にとっても理不尽なこのような社会システムを、毎週学生と学んでいます。こういった授業の中で、学生は、自分たちの自信のなさや思いこみから、少しずつ自由になってきていると思います。

### 《ジェンダー／セクシャリティ》プロジェクトの頃

経済学部教授 井上 信宏

日本文学を専門とする2名の女性研究者と開発経済の女性研究者、アジアとラテンアメリカの貧困をフィールドとする男性研究者と高齢者介護の僕の5名が「ジェンダー／セクシャリティ」をめぐる教育研究基盤を拡充するプロジェクト」を立ち上げて学長裁量経費を受けたのは2001年のことであった。

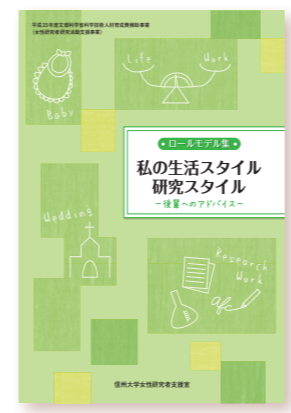
この発端は「このカリキュラムにはジェンダーがない」と呟いた女性研究者の酒飲み話にある。経済学部カリキュラムの「主流」ではないメンバーだった。それがジェンダーやセクシャリティを声高に叫んでも無視されるのが関の山だった。「既存の制度を使いながら、講義に組み込んだジェンダーやセクシャリティの問題を可視化できないか？」

そのために編み出した方法が、シラバスの符牒を合わせることであった。正確にはもう覚えていないが、5人は示し合わせて「\*この授業は(ジェンダー／セクシャリティ)プロジェクトに参画しています」の一文を、シラバスの決めたところにゴシック体で書き込むことにした。

小さなさざ波に気づいた学生の受け皿は、くだんの講義だけではなかった。プロジェクト予算で関連図書を購入して経済学部資料室の入口に専用の配架コーナーを用意してもらった。学期中に関連映画を観る企画を僕は手弁当で開催した。もう、10年以上前のことである。

# ロールモデル集 発行

信州大学の研究者紹介冊子が完成しました。  
13名の研究者からのメッセージが込められています。



- 私の研究について
- 後輩へのアドバイス
- 研究と生活のバランスについて
- 研究補助者制度の利用について
- 休みの過ごし方



若手研究者・大学院生の皆さんへ  
「私の生活スタイル・研究スタイル」はライフイベントと研究の両立をしている先輩研究者からの～後輩へのアドバイス～を掲載しています。ぜひご覧ください。

※冊子ご要望の方は、女性研究者支援室までご連絡ください。

## 若手および新任の女性研究者・女子大学院生の皆さんへ **メンティ編** ～自らのキャリア形成のために～

### 女性研究者支援室にメンターとして登録をした 本学教員が女性研究者の相談に応じます!!

### 相談するとこんなメリットがあります!!

- 研究活動とライフイベントの両立、継続的な就業へのアドバイスが受けられます。
- 職務上必要な知識や情報を得ることができます。
- 部局を超えた交流ができます。

メンタリングを活用することで、研究者としてのキャリア形成を築くヒントが見つかるかもしれません。まずはお気軽に女性研究者支援室までご相談ください。  
※メンタリング利用の詳細は、女性研究者支援室(長野分室)までお問い合わせいただくか、メンティ編リーフレットをご覧ください。



**受付窓口**

信州大学女性研究者支援室(SuFRe)長野分室(教育学部内)  
TEL: 026-238-4048 E-mail: sufre@shinshu-u.ac.jp  
ホームページメンタリング申込みフォーム ▼

信州大学 スフレ 検索

## 平成25年度(4月～9月期) 研究補助者制度の利用者が決まりました。

本学の女性研究者等が出産、子育てまたは介護と研究活動を両立できるよう、研究補助者を措置する制度を平成25年度(4月～9月期)も引き続き募集を行いました。  
厳正な審査のうえ、利用者を決定いたしました。

選考結果	
利用者	16件 (女性12名、男性4名)



# 第1回女子学生・大学院生のキャリア形成支援セミナーを開催します

平成25年度文部科学省科学研究費補助事業 女性研究者研究活動支援事業  
第1回 女子学生・大学院生のキャリア形成支援セミナー

研究者になるために  
“デジタルプレゼンテーション”を学ぼう!

定員30名・要予約 参加無料

日時 平成25年 3月7日(木) 13:00~17:00  
場所 松本キャンパス旭会館3階 大会議室

対象 PowerPointの各機能を理解している方  
女子学生・大学院生・研究員の方の参加をおまわししています。  
人数に余裕があれば、男性も参加できます。

講師 車塚 元章氏  
(インサイトラーニング株式会社 マーケティング部長)

開催日時 3月7日(木) 13:00~17:00  
会場 信州大学 松本キャンパス 旭会館3階大会議室  
対象 PowerPointの各機能を理解している方  
女子学生・大学院生・研究員の方  
(人数に余裕があれば男性も参加できます)  
定員 30名  
持ち物 パソコン(持参できない人は相談に応じます)

事前課題を作成してきてください

パワーポイントのスライド作成  
(1分間プレゼン用)  
テーマ:「我が町のお国自慢」「私の故郷紹介」など

主催: 信州大学女性研究者支援室 共催: キャリアサポートセンター  
お問い合わせ: 女性研究者支援室(長野分室)

## 大学入試センター試験における一時保育のご報告

1月19日(土)、20日(日)の2日間に行われた大学入試センター試験において、試験業務に従事する教職員のために、一時保育を実施しました。試行実施となった本年度は松本キャンパスと長野(教育)キャンパスの2カ所で実施し、松本キャンパスでは2日間で延べ12名のお子様、長野(教育)キャンパスでは延べ7名のお子様をお預かりしました。

託児を学内で実施することにより、長時間(7:00~試験業務終了)にわたる託児が可能となりました。また、大学からの予算補助がありました。

本学が男女共同参画を推進するなかで、今後の支援体制に期待が寄せられています。

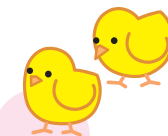
### 利用者の声

いつもの保育園とは違う『大学の保育園』を2日間楽しくすごさせていただきました。帰宅後も「大学の保育園は、次はいつ行くの?」と楽しそうに話していました。

学内で託児を行っていただけたのは本当にありがたかったです。



松本キャンパスでの様子



長野(教育)キャンパスでの様子



### お問い合わせ

#### 信州大学 女性研究者支援室 (SuFRE)

松本分室 (総務部人事課内)  
〒390-8621 松本市旭 3-1-1  
TEL 0263-37-2167  
FAX 0263-37-3314  
内線 811-2127

長野分室 (教育学部内)  
〒380-8544  
長野市西長野 6-口  
TEL/FAX 026-238-4048  
内線 831-4048

E-mail: [sufre@shinshu-u.ac.jp](mailto:sufre@shinshu-u.ac.jp)

信州大学 スフレ 検索

開室時間  
9:00~17:00(月~金)

#### 長野分室(教育学部内)案内図

